



和と力

8・9月号



売布小ホームページ

令和8年(2026年) 8月31日

宝塚市立売布小学校

平和の原点

校長 安藤 いずみ

長いようで終わってしまうとあっという間の夏休み、皆さんはどのように過ごされましたか？今年は、あまりの暑さに道を出歩く人が減っているようにも感じました。暑さ対策にも苦勞をしたのではないかと思います。そのような中、家族とゆっくり過ごしたり、友達と遊んだり、読書や自由研究に取り組んだり、習い事の大会や発表会などにチャレンジしたり、いろいろな過ごし方をしたことと思います。うまくいかなかったこともあるかもしれませんが、それも含めて貴重な経験になったことでしょう。2学期には、そこで得た経験や絆をもとに、学校生活でもさらに成長してほしいと思います。

今年は、戦後 81 年。この夏休みにもいろいろな行事があり、テレビや新聞、ネット等のニュースで数多く報道されていました。8 月 6 日、9 日、15 日。毎年迎える日ではありますが、だからこそ、毎年積み重ねてゆく大事さを感じます。

今年の長崎平和宣言では、13歳で被爆された吉田勝二さんの言葉「平和の原点は、人間(ひと)の痛みがわかる心を持つこと。」について触れられていました。壮絶な体験をして、自らの顔にも消えることのない大きな火傷のあとが残り、周囲からの視線に苦しみ続けられたという吉田さんは、平和の尊さを伝えるためにご自身の経験や想いを語ることを決意されました。

平和というのは、今戦争で苦しんでいる遠い国の問題ではありません。私たち一人一人の心の問題なのです。自らの足元を見つめなおし、「人間(ひと)の痛みをわかる心を持つ」子どもたちを育てることが私たちに課せられていると感じます。本校のめざす学校像には人権尊重を基盤とする旨をうたっています。あらためて、日々の教育活動において取り組むことを肝に銘じたいと思います。また、10月には人権参観を行います。保護者の皆さまにはぜひともご参観いただき、お子さまと語り合っていただければと思います。

9月末から6年生は、広島へ修学旅行に行つてまいります。9月2日には、事前学習として兵庫県原爆被害者団体協議会(県被団協)前理事長の岡邊好子さんに来ていただいて、お話をしていただきます。宝塚市の行事にも参加されておられる岡邊さんを報道でご存じの方も多いことと思います。岡邊さんも「生かされている限り、語り継ぐ責任がある」という思いで、長らくご自身の体験を語り続けてこられたお一人です。当時の経験を直接語ることができる方が少なくなっていく中、子どもたちの世代に受け継がれるバトンは大変意味が大きくなっています。

本校でも、子どもたちがしっかりとその思いを受け継いで、まずは身近なことに目を向けて、周りの人の心に寄せることから始めてほしいと思います。



(引用:長崎平和宣言 - 長崎市ウェブサイト(平和推進課))